

ひと・ネットワーク¹²¹

「演劇で心のふれあいを」

演劇集団ほりごたつ
劇団員 遠藤陽子



「コンブジャナイヨオンブダヨ～コンブジャナイヨオンブダヨ～」 - 2人呪文を唱える
「オンブマン本当にありがとう！なんとかやってみよう！」

これは、私たちが上演した「はばたく時は今」のワンシーンです。面白いこの呪文は「オンブズパーソン」について理解を深め、身近に感じてほしいとの思いが込められています。

「演劇集団ほりごたつ」は、eネット（県央東地区オンブズパーソンネットワーク）の企画で昨年誕生しました。障害者を取り巻く出来事や新しい制度等をテーマとし、より分かりやすく観てもらえるような芝居を創っています。今年は2月と10月の2回公演を行いました。私たちの特徴はナント、音楽が全て生演奏!! バンドさんたちが、かっていい演奏で盛り上げてくれます。そこに個性豊かな劇団員が加わり、難しいテーマにもかかわらず、楽しい芝居が出来上がっています。私は今回利用者の役を演じましたが、終演後、観客の障害者の方々が「楽しかった」と笑ったり、「コンブジャナイヨ」とセリフを言うてくれたりすることがとてもうれしく、「やって良かったナ」と充実感でいっぱいになりました。きっと、楽しい空間を共有できたのだと思います。

“役者と観客の障害者”という関係ではなく、“人と人”として心がふれあうということ。すごく素敵ですね。私たちの演劇活動を通じて、一人でも多くの方が、この心のふれあいや楽しい空間を感じてくれることを、私は願っています。そしてその為がんばります。

現在「ほりごたつ」では、公演依頼及び劇団員を大募集中です。どんな場所でもお伺いしますし、劇団員は経験等問いません。同じ気持ちで歩いてくれる方、是非どうぞ！

※詳細はeネットホームページ(<http://www1.ttcn.ne.jp/~e-net/>)

アズモアには、近隣にすむ比較的若い世代の夫婦や親子、学生が多く訪れるそうです。

市場開発本部マネージャーの土橋正さんは、「介護の必要の有無や年齢、性別を問わず、様々な方々にお越しいただき、色やデザイン豊かな生活雑貨で、心豊かになっていただくと同時に、同じ

暮らしの接点となる商品のあり方

存在が、他の家族に不快感を抱かせていないか。そのような視点を常に持ちながら、商品選びや開発をしていくことが、介護の有無を問わない、一人ひとりの尊厳を尊重した介護につながっていくと思うのです」と言葉を続けます。

ような感覚で、生活用品のひとつとして介護用品に目を向け、関心を持ってもらう。そんな店舗を作っていくかと思っています。介護や障害の問題を、特に意識して考えるのではなく、誰もが感じる生活の不便さを、少しでも解消していくにはどうしたらいいのか。同時に、それがより良いものになるには、どこを工夫したらいいのかを考えていくことが大切だと思います。そのような考えをもとに、選り抜かれた商品は、家族全員の潤いのある暮らしをつなぐものとなると信じています」と結んでくださいました。(企画課)

※URL <http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kisei/chukan/>

今月のまとめ

冒頭の内閣府の中間とりまとめについて、最初にご理解いただきたい事があります。それは、社会福祉法人に限らず、福祉サービスを提供する事業者は、サービスの質の担保が問われる中で、「他に負けないような事業」をするのではなく、「利用者のより良い生活を実現するための事業」の展開を図り、互いに切磋琢磨しながら、福祉市場をより充実させていくことが重要だということです。そのためにも、社会福祉法人のこれまで培ってきた実績と経験を、十分に生かせる事業のあり方を探索していく必要があると思います。

今回は、介護用品を誰もが使う生活用品として考え、介護を生活の一シーンとして捉えること。そして介護をより楽しく、美しく演出する商品開発から、「生活の中の福祉」のあり方を考えました。家庭内に介護用品が持ち込まれることで、介護者である家族等に、介護以外の新たなストレスを生むことは十分に考えられます。介護を必要とする利用者だけではなく、家族が共に生活をする場である家庭をも視野に入れた、福祉サービスを展開していくこと。それには、福祉分野にとらわれず、様々な社会資源の有効活用や地域住民との協働を図りながら、常に新しい視点で福祉サービスを構築していく姿勢を持続していくことが大切だと思います。

(「今月のまとめ」協力) ㈱川原経営総合センター 福祉経営指導一部
TEL 03-3289-0867 URL: <http://www.kawahara-group.co.jp/>